

ipbes

侵略的外来種とその管理 に関するテーマ別評価 SPM概要

2023年9月12日

池田 透（北海道大学）



www.ipbes.net

UN
environment

UNESCO
United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

FAO
Paris

Food and Agriculture
Organization of the
United Nations

UN
DP

empowered lives.
resilient nations.

無断転用禁止



1.

侵略的外来種とその管理に関するテーマ別評価の概要



無断転用禁止

侵略的外来種とその管理に関するテーマ別評価報告書の構成

Chapter 1. Introducing biological invasions and the IPBES thematic assessment of invasive alien species and their control

(外来種の侵入及び侵略的外来種とその管理に関する
テーマ別評価序論)

Chapter 2. Trends and status of alien and invasive alien species

(外来種及び侵略的外来種の動向と現状)

Chapter 3. Drivers of change in nature affecting biological invasions

(外来種の侵入に影響を及ぼす変化要因)

Chapter 4. Impacts of invasive alien species on nature, nature's contributions to people, and good quality of life

(侵略的外来種の自然、自然の人間への寄与、及び良質な生活への影響)

無断転用禁止



Chapter 5. Management; challenges, opportunities and lessons learned

(管理：課題，機会，及び得られた教訓)

Chapter 6. Governance and policy options for the management of biological invasions

(外来種侵入の管理のためのガバナンスと政策オプション)

Summary for policymakers of the thematic assessment of invasive alien species and their control of the Intergovernmental Platform on Biodiversity and Ecosystem Services

(生物多様性と生態系サービスに関する政府間プラットフォームにおける侵略的外来種とその管理に関するテーマ別評価政策立案者向け要約：SPM)

無断転用禁止

侵略的外来種とその管理に関するテーマ別評価の過程と内容

- ・ **世界中の侵略的外来種に対して行われた最も包括的な評価**
- ・ **49カ国の86人の専門家** (co-chairs:3人, CLAs:14人, Las:45人, Fellows:12人, Review editors:12人) に加えて39か国から199人の contributing authors が参加し、**総計57か国285人によって4年半以上かけて作成**
- ・ **報告書の草案は46カ国100人以上のレビュアーによって検討され、12,000件以上のコメントに対応して改訂された**
- ・ **政策立案者のための要約の草案 (SPM) は、32の IPBES加盟国と79人のレビュアーによって検討された**

無断転用禁止

- ・ テクニカルレポートや先住民の知識情報を含む **13,000本の文献**を情報源とし、**30,000にわたる根拠**に基づいて評価
- ・ 関連政策については**196カ国**を評価
- ・ **195カ国の侵略的外来種チェックリスト**を活用
- ・ **3500万以上の外來種個体群**の記録を活用 (Global Biodiversity Information Facility : GBIF及び Ocean Biodiversity Information System : OBIS)
- ・ **37,000以上の定着した外來種**の記録を活用
- ・ 外來種地域発生データベース (チェックリスト) には、**4,000以上のデータソース** (例えば、科学文献、報告書、データベース) に基づいて、**39,000以上の外來種**を含む

無断転用禁止

- ・ **3,500以上の侵略的外来種**から世界的に**24,000以上の文書化された影響**
- ・ アフリカの50カ国を含む**16の異なる言語での影響報告**を含む
- ・ シナリオとモデルのレビューでは、**30,299の文献項目がスクリーニング**され、IASのシナリオとモデルに関する最終的なデータセットには**778の異なる参考文献が含まれている**（この情報は報告書ののすべての章で参照）
- ・ 外来種の侵入を促進する**44の直接的、間接的、自然のドライバー**に関する情報

無断転用禁止



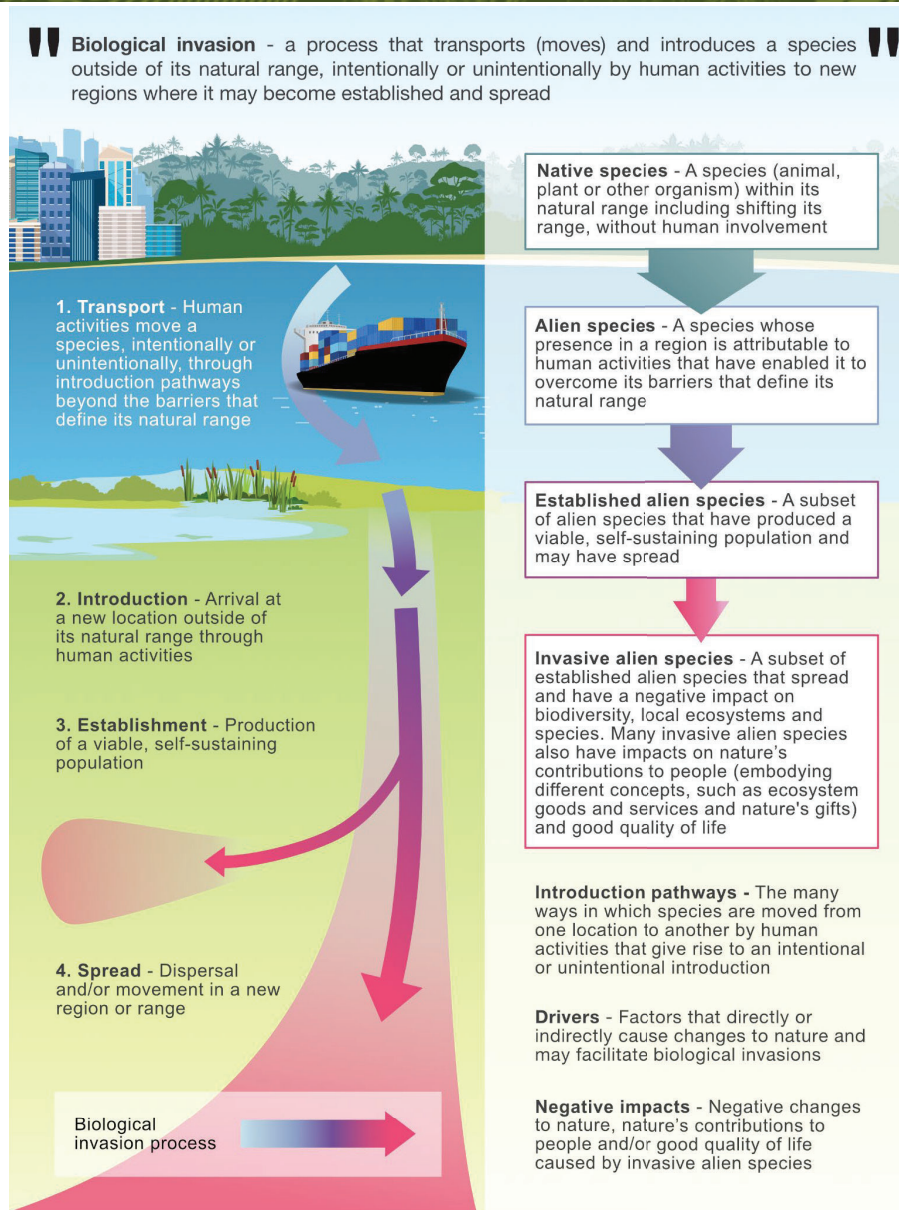
2.

SPMにおける評価体系 外来種の導入と侵略的外来種



無断転用禁止

外来種侵入プロセスの把握を通して侵略的外来種の理解



今回の評価では、**外来種の侵入 (Biological Invasions)** というプロセスの理解から**侵略的外来種 (Invasive alien species)** に焦点化 (Figure SPM.1)

生活の向上を求めて人々が行う物資や人の**輸送 (Transport)** によって生物が自然の生息域外に**導入 (Introduction)** され、

在来種 (Native species)



外来種 (Alien species種)

生存可能で自生可能な個体群の**定着 (Establishment)** によって、



定着外来種 (Established alien species)

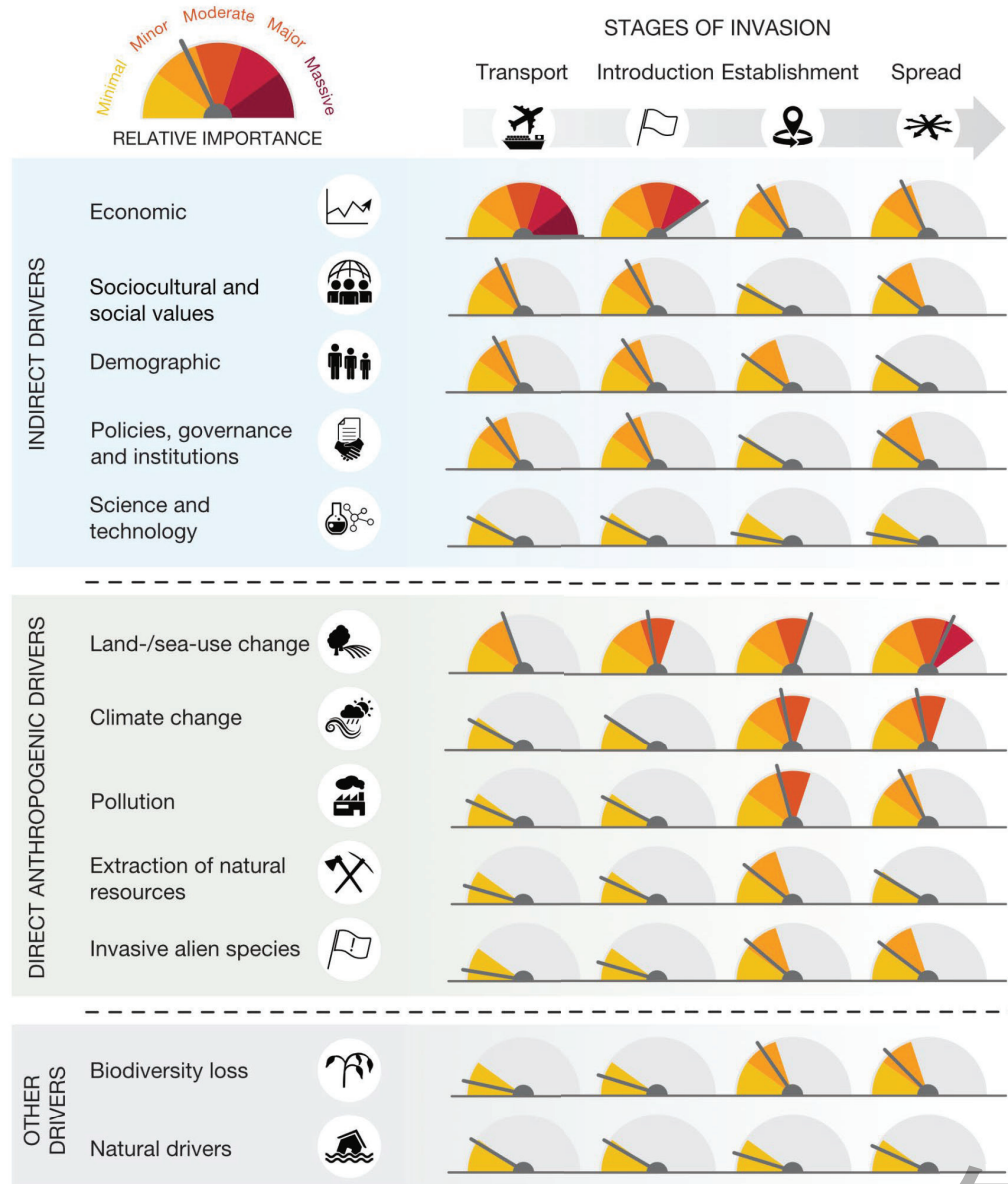
個体群が新たな環境に適応して**拡散 (Spread)** し、自然 (生物多様性や生態系サービス)、自然の人々への貢献、及び生活の質の向上への負の影響を与えるものが、



侵略的外来種 (Invasive alien species)

無断転用禁止

外来種侵入プロセスと変化要因の関係性



輸送・導入・定着・拡散という外来種侵入の各プロセスにおいてどのような変化要因 (Drivers change in nature) が作用しているかを見てみると、

経済、社会、人口動態、政策、科学・技術といった間接的要因は、輸送・導入という前半のプロセスで強く作用

陸地・海洋利用の変化、気候変動、汚染、自然資源の採取、侵略的外来種といった直接的要因は、定着・拡散といった後半のプロセスで強く作用

無断転用禁止



3.

SPMからのメッセージ

無断転用禁止



Science and Policy
for People and Nature

侵略的外来種による脅威

1. 侵略的外来種は自然、経済、食料安全保障、人間の健康に大きな地球規模の脅威をもたらす

- 自然と人々は侵略的外来種によって悪影響を受けている
- 裕福でも貧しくても、島でも大都市でも、地球の隅々にいるすべての人に影響を与えているが、一部の人々は他の人よりもはるかに影響を受けている
- 侵略的外来種は、土地や海の利用の変化、種の直接搾取（乱獲）、気候変動、汚染とともに、生物多様性の損失と種の絶滅の主要な要因の一つである
- この評価は、昨年12月の国連会議で合意されたように、2030年までに優先侵略的外来種の導入と定着を少なくとも50%削減するという最近設定された目標に向けて努力する政策立案者や意思決定者にとって、証拠ベースラインと一連の選択肢として役立つものと期待
- 侵略的外来種の急増は、生態系や種に恒久的な被害をもたらし、地球規模の脅威に対応する自然の力を弱める一方で、自然の人々への貢献を低下させる
- 侵略的外来種は世界の種の絶滅の60%に寄与している（島だけではなく、大陸地域でも多くの症例）
- 外来種の侵入に対する世界的な年間コストは4230億ドルを超えると推定
- コストは1970年以降、10年ごとに4倍

侵略的外来種の脅威は、今や日常生活の現実となっており、地球上の生活のあらゆる面で大きな問題を引き起こし、悪化している

無断転用禁止

影響に関する数字

60%

世界的な種の絶滅のうち、単独又は他の要因と複合的に、侵略的外来種によって引き起こされているものの割合

>\$423
billion

2019年の外来種の侵入による世界の年間推定コスト

85%

自然と良質な生活に対する影響のうち負の影響の割合

80%

自然の人間への寄与 (NCP) に対する影響のうち負の影響の割合

#InvasiveAlienSpecies Assessment

無断転用禁止

2. 貿易と旅行の増加、土地と海の利用の変化、気候変動等によって、侵略的外来種の数と影響は増加する

- 外来種は、自然には発生しない世界の地域に、さまざまな方法で人間によって持ち込まれる
- 意図せずに持ち込まれるものもあれば、意図的に持ち込まれるものもあり、それらの多くは悪影響を及ぼさないが、自然や人に重大な悪影響を及ぼす侵略的なものもある
- 貿易・旅行は侵略的外来種の輸送を促進し、土地と海の利用変化と気候変動は侵略的外来種の拡散を促進する
- これらはすべて増加すると予想され、侵略的外来種の脅威をさらに増幅する可能性が高い
- 侵略的外来種が自然、健康、食料と水の安全保障、生計、文化的アイデンティティに与える影響は、しばしば非常に有害である
- 侵略的外来種は、それ自体が生物多様性の損失の主要な要因であるが、どのような要因も孤立して行動することはなく、相互に作用し、互いに高め合い、自然や人々にさらなる負の影響をもたらす可能性がある
- 侵略的な種の増加や生物多様性の損失の他の要因を考えると、今すぐ行動しなければ、評価はより悪化し、拡大する影響が予測され、現在の行動では不十分です!
- これらの問題に具体的に対処する国内法や規制がある国はわずか20%で、すべての国の45%は侵略的外来種の管理に投資していない

対策を講じなければ、侵略的外来種は増加し、地球全体の自然と人々に劇的な問題を引き起こす

無断転用禁止

3. 私たちは今何をすべきかを知っており、希望は残されている。侵略的外来種の管理に成功した例は多々あり、私たちはツールと知識を持っているが、それらは断片的で一貫して適用されていない。侵略的外来種の将来の脅威に対する進歩は可能だが、侵略的外来種の拡大と最悪の影響を防ぎ、この評価で概説されたツールと科学的知識を適用するために、すべての社会と経済の間で賢明に協力する必要がある。

- 成功を達成するためには、**政府はセクターを超えて、企業、先住民族、地域社会、NGO、私たち全員と協力し、長期的な資源（資金を含む）と協調した行動をとる必要**
- 侵略的外来種は国境には規制されないので、どの国も単独でこの問題に取り組むことはできず、**国や組織を超えた協力がさらに必要**
- 状況に対応する**意思決定の枠組み、ツール、技術**を持っており、必要に応じて、科学者や地元の利害関係者を巻き込むことで、**知識のギャップを埋めることが可能**
- **予防は治療よりも効果的**であり、評価は侵略的外来種の到着と定着を減らすために投資する方が安価で賢明であることを示している（**リスク評価の枠組み**はこれに不可欠であり、成功していることが証明されている）
- 昨年12月に、**世界の政府は昆明-モンリオール世界生物多様性枠組みにおいて、優先的な侵略的外来種の導入と定着を2030年までに少なくとも50%削減するという大胆なコミットメントを行ったが、この目標を達成可能なものにしたのであれば、少しの対応の遅れも許されない**
- IPBESの侵略的外来種評価は、**このコミットメントをより達成可能なものにするための証拠、ツール、オプションを提供する**

政府、市民社会、企業、先住民族や地域社会は、すべて重要な役割を担っており、私たちが協力して行動すれば、侵略的外来種の拡大と最悪の影響を防ぐことが可能

無断転用禁止

ご清聴ありがとうございました



#Invasive Alien Species

Thank you for your attention

Seamus O'Leary
seamusoleary@gmail.com
01 272 61364

無断転用禁止